



## 縁日ごっこ……

好天に恵まれた8月1日(水)。肢体不自由児通園施設のぞみ園の園児を招き、幌別東保育所で「縁日ごっこ」が行われました。

児童の力作手作りみこしが午前10時に広場を練り歩いた後、児童・保母全員の手作りによる縁日が始まり、広場には赤や青の浴衣、法被姿の子ビッチたちの歓声が上がっていました。

NOBORIBETSU

広報  
**のぼりべつ**

'90.9.1  
No.479



# 夏期巡回 ラジオ体操会

八月三日午前六時半から、市内七会場で、市制二十周年記念夏期巡回ラジオ体操会（郵政省簡易保険局など主催）が行われ、市民約七千人が心地よい汗を流しました。主会場の陸上競技場には二千三百人が参加し、開会式のあとはいよ本番。NHKラジオを通し全国生中継される中、テレビでおなじみの講師、輪島直幸さんのかけ声に合わせて、さわやかな朝の空気を吸いながらのラジオ体操でした。



# ソングブル

## “成人”を祝う

### 市制施行二十周年記念式典

登別市制二十周年を祝う記念式典が八月一日市民会館で開催されました。

この日の式典には、道内自治体の首長や姉妹都市である宮城県白石市の代表、市民を代表して市内各地区の町内会長など約六百人が参加し、市の満二十歳の“成人”



を祝うとともに、二十一世紀への飛躍と発展を誓い決意を新たにしました。

上野市長は、「未来に向け、市民とともに力を合わせ住みよいまちづくりに努力したい」と式辞を述べ、来賓を代表して横道孝弘道知事（代理）、青木胆振支庁長、岩田弘志室蘭市長らが祝辞を述べました。

この後、郷土芸能の「鷺別獅子舞」などを鑑賞しながら登別市の一層の発展を願いました。

## ヘンティイさん 到着

市内の中学校で英語指導助手を務める、米国人のピーター・ジョン・ヘンティイさん（三三）が六日、市役所を訪れました。

ヘンティイさんはアーシンス大卒業後、教員資格取得のため現在ヨーク大で勉強中です。

二年間という短い期間ですが日本の生活や文化を楽しんでください」と、市長が歓迎すると、持参した写真でふるさとの家族や自然を日本語を交えて紹介し和やかに懇談しました。

今年度市が行う外国人青年招致事業の一環として招かれたヘンティイさんは、国際化の進展を図るため、鷺別中学校を皮切りに市内の中学生に生の英語を指導するとともに、英会話教室や交流会などに参加します。





# ナイスシュート!!

## —川上公園運動広場— サッカーまつり

# わ だ い ス ク ラ

登別市川上公園多目的運動広場開設記念サッカーまつり（市サッカー協会、市体育協会主催）が八月十九日開催されました。この運動広場は、サッカーやフットボールなどの球技を主体とし縦百、横六十四、面積八千三百六十平方メートルの規模。水洗トイレと更衣室の完成を待ってこの日のサッカーまつりとなりました。午前九時から開会式が行われ、引き続き市内九チームのサッカー少年団から選抜された選手による東西対抗戦がキックオフ。チビッ



登別マリンパークで連日バイキング劇公演中のデンマークの劇団員が八月十五日、市役所を訪れました。

### バイキングが やって来た

子選手たちは広いグラウンドを元気に走り回り、真新しいゴールを指してボールを追っていました。また、女子サッカーチームの試合やサッカー個人対抗戦も行われ青空の下、楽しい一日を過ごしていました。



昔の生活用具を実際に使った生活を体験しようと、ユニークなキャンプ学習が八月七日から一泊二日で行われました。



### ふるさと 少年少女 交流キャンプ

やって来たのはデンマーク・フレデリクセン市の劇団「バイキングエスビル」の一行十名。同市はバイキング伝説発祥の地で、毎年夏にはバイキング祭りが行われているそうです。市役所ロビーでは、トランペットを長くしたような「ルアー」と呼ばれる楽器を高らかに吹き鳴らすと、来庁者や職員から盛んな拍手が沸き上がりました。フレデリクセン市長のメッセーじと同市特産の花瓶が登別市へ贈られました。



八月二十日、川上町の養護老人ホーム「恵寿園」で恒例の仮装盆踊り大会が開催されました。同園に入園しているお年寄りのうち二十四名が一体さんや水戸黄門、看護婦などに仮装し、太鼓のリズムに合わせて踊りの輪をつくっていました。趣向を凝らした仮装に各賞が贈られた後、花火大会を行いました。

### 恵寿園 仮装盆踊り大会

参加したのは市内の小中学生三十四人と東京在住の「東京登別けんきかい」の会員子弟六人です。郷土資料館の裏庭にテントを張ったあと地域の老人クラブ会員の協力で同館に保管してあるウスとキネを使いもちをつき、肝試し用のカンテラを作ったり、すいか割りや花火を楽しみました。夕食は全員でカレーライスを作り、外で食べるご飯はおいしいなどと、楽しいひとときを過ごしていました。



# 健康なくらしを支える 国民健康保険

## 国保のしくみと届け出

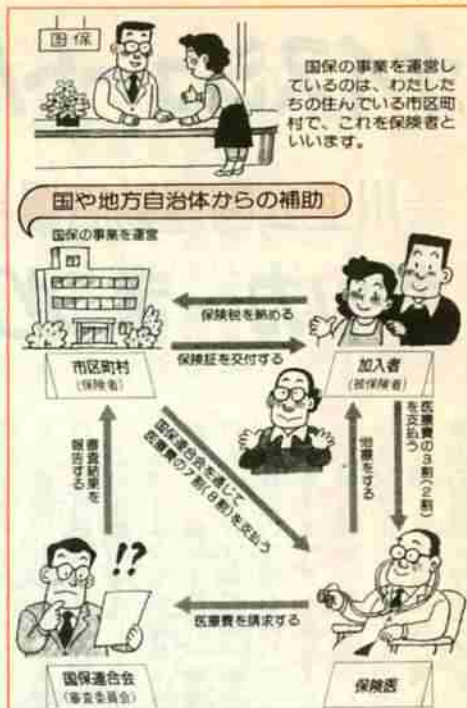
届出は**14日以内**に

病気やけがは、いつ襲ってくるか分かりません。そんな時、お金がなくて、お医者さんにかかれないとしたら大変です。

国民健康保険制度は、そういう場合にそなえて加入者(被保険者)が日頃からそれぞれの収入に応じてお金を出し合い、お医者さんにかかったときの医療費にあてようという相互扶助を目的とした制度です。

医療費が支払われるまでのしくみは図(1)をご覧ください。

また、市内に住んでいる方で、



このようなときには手続きを	必要なもの
国保に入るとき	印かん
職場の健康保険をやめたとき	印かん、職場の健康保険をやめた証明書
子どもが生まれたとき	印かん、保険証、母子健康手帳
生活保護をうけなくなったとき	印かん、保護廃止通知書
転出するとき	印かん、保険証
職場の健康保険に加入したとき	印かん、国保の保険証、健康の保険証
生活保護をうけるとき	印かん、保険証、保護開始通知書
死亡したとき	印かん、保険証、死亡を証明するもの
市区町村内で住所が変わったとき	
世帯がおかれたり、いっしょになったとき	印かん、保険証
世帯主が変わったとき	
保険証の内容訂正および再発したとき	
様字のため、子どもが他の市区町村に下宿するとき	印かん、保険証、在学証明書
保険証を紛失したとき	印かん

図(2)

職場の健康保険・各種共済組合などに加入している方や生活保護を受けている方以外は、すべて国民健康保険に加入しなければなりません。該当者は、本人の意志にかかわらず、「病気などしないから」とか「病院代は自費で払う」などの理由で国保に加入しないということとはできません。

国民健康保険に加入している方も図(2)のようなときには、二週間以内に必ず届け出をしましょう。

## 国保税の決め方

みなさんの医療費の七割を国保が負担しますが、その財源は、国庫負担とみなさんに納めてもらう保険税でまかなわれています。

登別市の保険税は、次に掲載した四つの項目を加えて計算され、世帯主がこれを納めなければなりません。

なお、課税限度額は三十九万円で、前年の所得金額が一定基準以下の世帯は、均等割額、平等割額をそれぞれ一定の割合で減額します。

図(3) 保険税算出の基礎

区分	説明	金額(税率)
所得割	総所得金額 —基礎控除等	12/100
資産割	固定資産税 (土地・家屋)に対し	30/100
均等割	1人に付き	14,000
平等割	1世帯に付き	18,000

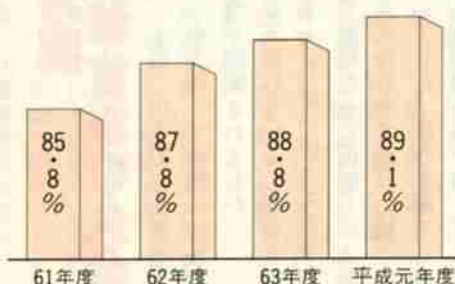
**保険税は必ず納めましょう**

登別市の国保税の滞納総額は、四億一千万円に膨らんでいます。未納があると赤字が増えるだけでなく、国からの補助金も減らされ、結果的にきちんと納めている人に対し迷惑をかけていることになり

## 保険税は納期内に



図(4) 年度別・国保税の収納率



ます。

市では元年度に引き続き、滞納処分を厳正に実施します。これは、たび重なる催告にもかかわらず納税相談にも応じようとしない長期滞納者へ最終催告を行い、電話・不動産・給料や銀行調査による預金の差し押えを実施します。

国保税は制度の柱です。納期までにきちんとおさめましょう。



# 国保に加入すると次のような

## 給付が受けられます

国保の事業は、病气やけがをし、お医者さんにかかったとき、医療費の負担をすることです。そのほか、お産があったときの助産費、お葬式の際の葬祭費なども支給しています。金額、手続の方法は次のとおりです。

◎医療費 病气やけがで診療を受ける場合、保険証を持参して医療機関（保険を扱う病院、診療所）で診療を受ければ、医療費の七割は国保が負担します。

◎高額医療費の支給 一人の人が一月に、一つの医療機関に五万七千円（道市民税非課税世帯の人

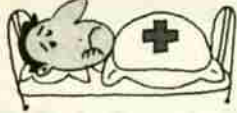
### 医療費の70%を負担

病气やケガで診療を受けるとき、保険証を持参すれば医療費の70%を国保が負担します。



### 高額療養費を支給

医療費の自己負担額が一定額を超えた場合その超えた分は国保が負担します。



### 助産費

被保険者が出産したとき、助産費が支給されます。



### 葬祭費

被保険者が死亡したとき、葬祭費が支給されます。



は三万一千八百円）以上の医療費を自己負担して支払った場合、五万七千円を超えた額は、国保があるから払い戻します。また、一つの世帯で一月に三万円（道市民税非課税世帯は二万一千円）以上の医療費の支払いが二回以上ある場合や、一つの世帯で、高額療養費に該当する医療費を前十二か月以内に四回以上支払った場合なども該当します。ただし、同一の病院・診療所ごとの計算、総合病院の各診療科での医療費は別計算になるなど、計算方法が色々ありますので、詳しくは、国民健康保険

係までお問い合わせください。手続きに必要なものは、保険証、病院に支払った医療費の領収書、印鑑。また、銀行に払込みしますので、銀行の口座番号を控えて市役所、各支所へおいでください。

◎助産費の支給 被保険者が出産した場合、助産費十三万円が支給されます。

手続きに必要なものは、保険証、印鑑、母子手帳。銀行口座番号の控えをお持ちになって市役所、各支所へおこしください。

◎葬祭費の支給 被保険者が死亡した場合、葬祭費三万円が支給されます。

手続きに必要なものは、保険証、印鑑。銀行口座番号の控えをお持ちになって、市役所、各支所へおこしください。

# 国保の赤字と医療費

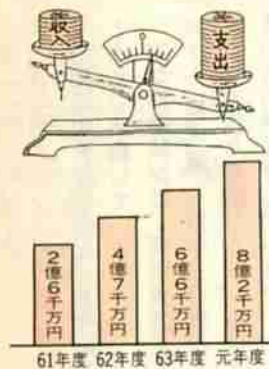
国保の赤字は、グラフでわかるように医療費の増加とともに年々増え続けており、平成元年度までの合計で約八億二千万円もの累積赤字となっています。

このまま医療費が増え続けると、当然、保険料も値上げしなければならぬ事態になります。医療費に関心を持ち、正しい受診を心がけましょう。

年度別医療費の状況



年度別の累積赤字 図(7)



## 医療費節約4か条

○医療費節約四か条

一、健康づくり

健康な体づくりには、栄養、バランスのとれた栄養、充分の睡眠と休養、適度の運動を心がけましょう。

一、早期受診、早期治療  
むずかしい病气でも早期受診を心がければたいい治ります。早く病气を発見するために年に一度か二度は健診を受けましょう。

一、むやみな転医  
ちよつと病气が治らないからといってすぐ転医したり、同時に二人も三人もお医者さんにかかる人がいます。こういうことは医療費のむだ使いにつながる場合が少なくありません。

一、時間外受診  
休日、深夜、時間外に受診すると割増料金をとられます。やむを得ない場合を除いて、時間内に受診するよう心がけましょう。



# 心と心のふれあい

## 福祉ボランティア

ボランティア会員を募集しております。(入会を希望する方は、次に御連絡ください。)

団体名	代表者氏名	住所	電話番号
登別市ボランティアの会	金井 上ハルヨ	登別市若草町6-8-6	86-6825
富士地区婦人ボランティアクラブ	高橋 田チエノ	登別市柏木町2-11-3	85-5928
美園地区婦人ボランティアクラブ	金永 美津枝	登別市美園町6-1-2	86-7059
登別地区更生保護婦人会	金富 長山マサ子	登別市中央町1-14-2	85-3609
登別手話の会	金井 久満	登別市千歳町4-5-183	88-0134
登別市点訳赤十字奉仕団	香川 伊達 豊子	登別市中央町2-6-2	85-2159
登別朗読ボランティアの会	香川 長仁 菊子	登別市中登別町83	84-2878
登別市赤十字奉仕団	香川 長越 愛子	登別市片倉町3-28-2	85-2724

私達の住んでいるこのまちにはいろいろな人が、それぞれかけがえない人生をすごしています。ひとり暮らしのお年寄り、心身に障害を持つ人、孤独な人、病人の介護をしている家庭……。さまざまな人びとが懸命に努力し生活しています。

ボランティアとは、ある辞典によれば「社会をよくするために、自分たちの時間と技術を自発的・無報酬で提供する人たち」と定義されています。

登別市内にもさまざまなボランティアグループがありますが今号では福祉ボランティアとして活動している主なグループにスポットを当ててみました。



布の本製作中の「登別市ボランティアの会」の方々

**「登別市ボランティアの会」**  
昭和五十二年に発足し、会員は男性一名、女性三十一名で活動しています。

活動内容は、友愛セールへの参加、視力障害者の方との交流会、特別養護老人ホーム「緑風園」への慰問、養護老人ホーム「恵寿園」へ前掛けや靴下の寄贈、肢体不自由児通園施設「のぞみ園」へ手作りのおやつや布の本のプレゼント、入浴サービス、赤い羽根募金などなど活発に行われています。

会の特徴としては、友愛セールで不用品のバザーを行い毎年二十万円の益金を社会福祉協議会に寄付していること、また、手づくりの布の本の製作です。障害のある方とは、心と心でふれあっていくことをモットーにしています。



車椅子の使い方の研修も真剣

**「富士地区婦人ボランティアクラブ」**  
昭和四十五年に発足。女性のみ十六名で活動しています。

主な活動状況は、特別養護老人ホーム「緑風園」へ毎年三百枚程度のオムツを作り寄贈したり、布ほどの労力奉仕をしています。その他、肌じゅばんを縫ったり、入浴サービスも行っています。

今後の活動としては、ひとり暮らしのお年寄りの家庭を訪問し、話し相手になったり身のまわりのお世話もしたいと考えています。毎月一回開催している例会では、すでに実施した事業の反省やこれから実施する事業の説明で活発に意見交換をしています。悩みとして、会を結成して今年で二十年になりますが会員の平均年齢が五十八歳と高齢化してきたことです。



例会でおむつを縫う「美園地区婦人ボランティア」の方々

**「美園地区婦人ボランティアクラブ」**  
昭和五十七年に発足。当時ひとり暮らしのお年寄りの孤独死が多発した時期にお年寄りのみを対象として結成されたボランティアです。会員は女性十八名。

同クラブの地域には、四十七名の独居老人が住んでおり、孤独な気持ちをなぐさめることと事故のないように訪問活動をしています。特に身体が弱く、日頃病院にも行かないお年寄りは保健婦さんの協力で血圧の測定をしてもらったり、生活指導をしてもらったりしています。

年三回程、一斉訪問をしますがこの時は、会員で手作りの蒸しパンをおみやげとして持っていきます。この時の笑顔が、何にも増しうれしいとのことでした。



## 「登別市点訳 赤十字奉仕団」

視力障害者との理解と交流を深めるため昭和六十一年に結成された比較的新しいボランティアグループです。会員は男性三名、女性二十三名の計二十六名。

活動状況は、登別視力障害者協会等の要請に応じ各種資料の作成やブライベートな点訳、鉄南ふれあいセンター点字図書室へ共同点訳した図書の寄贈、バス、電車の時刻表の点訳、初心者のための点訳の講習会などを行っています。

月一回の例会以外は自宅での点訳活動が重点を占めています。会員の学習・資質向上のため道点訳奉仕団連協の研修会、日赤道点字図書センターより添削の指導を受け、勉学にも励んでいます。



例会は点訳の実技と技術向上の研修が主体

## 「登別手話の会」

昭和五十年に結成され、現在、男性三名、女性十名の計十三名で活動をしています。

主な活動としては、毎年開催される全道ろうあ者福祉大会、全道ろうあ者夏季体育大会、身体障害者三市スポーツ大会等に手話通訳者の派遣を行ったり、室蘭聴力障害者協会室蘭手話の会の方々とキャンプや市民手話を知る会の実施、レクリエーションの参加などを行っています。

八月四・五日に開催された「ふれあい広場90のほりべつ」の会場で手話講習会を行い二十名程の参加者に判りやすく指導をしていました。「手話は目で見る言葉」をモットーに毎週一回例会を開き皆さんを積んでいます。



ふれあい広場での手話講習会

## 「登別朗読 ボランティアの会」

視力障害者のために声の図書を作成しています。昭和五十八年に会を結成して以来点字図書室の弱者用大活字本百四十冊をテープに吹き込み声の図書を完成したほか九名の会員が毎月交代で広報のほりべつをテープに吹き込み、社会福祉協議会を通して目の不自由な方に利用していただいています。

毎月の定例会では、各自吹き込んできたテープを持ち寄り聞きながら批評し合い、技術の向上を図っています。悩みとしては、各自、自宅で家事の合間にテープの吹き込みをしています。周りの騒音が非常に障害となること。また、朗読する本の種類によって男性の方が良い場合がありますが現在一名しかいないことです。



「登別朗読ボランティア」の例会風景

## 「登別地区 更生保護婦人会」

各地区の保護司に協力して犯罪を犯した人などの更生を助け、犯罪や非行のない明るい社会をつくらうと昭和五十六年に結成された婦人の組織です。現在四十二名の会員で活動しています。

活動の主な内容は、紫明学院(女子だけの少年院)や染香苑(出所者のうち、落ち着き先がない人で一時的に働きながら生活する更生施設)の施設を訪問し、悩みこととして、母としての立場から愛情を持って問題の解決に努力しています。さらに、地域社会の協力が必要不可欠であるため、各地区でのミニ懇談会や社会を明るくする運動に積極的に参加し、地域の人に理解を求めています。



今年の提灯まつりでは露店を出しました

## 「登別市 赤十字奉仕団」

市内に三つの分団(登別・富浦・片倉)があり、それぞれ地域に根差した活動を続けています。現在の会員は百十八名で、昭和四十五年に発足しました。

活動の内容は、公共施設の清掃、老人クラブの方々との交流、子供会との交流を行っています。災害時に備えて家庭にあるものを持ち寄り調理実習、おにぎりのにぎり方(大きさや速さ)の訓練をしています。市で実施する防災訓練へも炊出し班として協力するほか、万一の際の救急法、家庭看護法、児童看護法の講習会へ参加し、研修を行っています。

赤十字奉仕団は、全ての人々が健康で幸福に暮らせるということを基本理念にしています。



災害等に備えて炊き出しの実習



# 市民レポート

リポーター 坂本 優穂

最近、ノーマライゼーションという言葉をよく耳にします。これは、すべての人々が普通の生活を営むために困難を感じることをしないような条件をつくり、保障していくということです。

8月4日、5日の両日市民会館で行われた「ふれあい広場'90のほりべつ」は、このノーマライゼーションの考えに基づき地域で生活するみんなが励まし合い助け合い、隣人の幸せを自分の幸せとして感じあえるようなふるさと「のほりべつ」をつくろうと開催されたものです。

## ふれあい広場 '90登別



だれでも病気やケガ、あるいは深い悲しみや悩み事などでごく普通の日常生活が損われた経験を持っていると思うが、もしそれが心身の傷が癒えるまでの限られた期間でなく恒常的なものだとしたらどうであろうか？ 障害をもつ人達の苦しみは想像するしかない私ではあるが、仮定的な体験をすることとてわずかも理解を深め、自分のできることは何かを考えたいという気持ちから、市と社会福祉協議会が主催した「ふれあい広場'90（八月四、五日）」を体験取材した。

初日も、私が参加した五日も良く晴れて、十時の開場にはすでにたくさんの人たちが集まっており、関係者も忙しく立ち働いていた。社協の方に案内され、まず最初に視力障害者へのガイドヘルプ講習会に参加する。北海道盲導犬協会（いまや視力障害者の社会的リハビリテーション全般を受け持つ機関とのこと）の方の指導に従って二十人ほどがガイドする側とされる側に分かれてコンビを組み、途中役割を交替しながら市民会館内を歩く。アイマスクをかけた私の視界は暗闇に閉ざされ、左ひじを軽くつかんで手引きしてくれるガイドヘルパー役の安田社会福祉協議会会長の手だけが頼りだ。子供の頃、不意の停電にうろたえた記憶がよみがえる。その瞬間の深い孤独感

を思い出す。安田会長も不安感に想像以上だとまなざし深くおっしゃる。続いて介護教室へ移る。ここでは中登別にある特別養護老人ホーム「緑風園」の寮母長さんをはじめ三名の寮母さんが、寝たきり老人や身体障害者の介護を指導される。ズレないシーツの敷き方に始まり寝巻を着せる時は患側から、脱がせる時は健側からなど、教わる介護の基本はあくまでも介護される側の視点で考えられており、それはつまるところ愛情に結びつく。私もしゅうとを介護した経験からそれは良くわかる。愛情なくして介護の効果はないのだ。

技術の習練の他に愛情を不可欠の要素として働く寮母という仕事は、生半可な苦労ではないと思う。汗だくで実演して下さる三人の方に病人の介護は見てくれてはないという厳しさを感ぜさせられた。一階に下りて手話教室をのぞく。ここもたくさんの人だ。初体験の私が手本を見ながら「私の名前は坂本です」と冷汗もので伝え終わつた時、指導者の隣に座っていた聴覚障害者の男性が理解したしるしにニッコリ笑って下さった。その表情のかけりのなさが逆に私を驚かせた。指導して下さる若い女性が「手話は補助です。どうぞ健康な方は普通に話す時のように言葉

も声も出してください。唇の動きを見せて下さい」と話されたのがなぜか印象深く心に残った。駐車場へ出て十二時からの盲導犬実演コーナーに参加する。盲導犬サムは予想外の早足で二セ主人の私は、お願いサムもつとゆっくりと哀願する始末。だがその力強い歩みは代用の眼として主人を安心させるに足る自信に満ちていた。車椅子実演コーナーがふさがっていたのでもう一度館内に戻り、ボランティア資料展示室へ行く。点訳コーナーで実際に点字を打つてみる。登別市点訳赤十字奉仕団の方にお話をうかがった。結成して五年とのこと。市の広報紙に載





った「郷土史探訪」一号、百号を全六巻の点訳本に完成させたという。これがそうです、と手渡された青い表紙の部厚い本を何気なくめくった途端、私は胸がつまり、熱いものがこみあげてきて口がきけなくなりました。私に見えたものはただの真っ白い紙なのだ。私には何んの意味も持たない白いページ。だが眼をこらせば小さく無数に打たされている点、点、点。これが文字。指腹を眼とする点字だ。私などには無秩序に並んでいるとしか見えないこの小さな点こそが、光を失った人達にとってかつて見た記憶の中の青い空であり輝く海であり山あいの深い谷間に咲く花々であり、時には愛する者の忘れ

得ぬ面影であったりするのだ。恥じながら私は点字本というのを生まれて初めて見たのです。アイマスクをして暗闇の中に身を置いた時よりもはるかに「見えない」ということの真の意味が分った気がした。お互いにとって価値あるものが全く違うのだということをもまらず認識しなければ、相互の理解も手助けも有り得ないと改めて思う。そしてそれをふまえた上で、この小さな点をコツコツと打ち続けてきた人達の膨大な努力と時間。ボランティアの方達の地味で目立たない活動は朗読奉仕も手作りの布の本製作もその他のものも全て同じだ。障害者への真の理解の上になっっているからこそ、皆さん実に

さりげなく、しかしきっちりとして続けてこられたのだ。私は卑小な身辺雑事にのみ、とらわれている自分を恥じた。再び外へ出た時、月の光がことのほかしみた。最後の体験として車椅子に挑戦。指導説明して下さったのは鎖骨から下が全部麻痺しているという中年の男性だ。「長時間の正座でひどく足が痺れた経験ありますか？ 麻痺というのはその時の足と同じ状態を言います。触っても何も感じないでしょ。眼で見ない限り、どこを触られているかも分かりません。熱い冷たいも分かりません。内臓も同じです。悪い物を食べても下痢するまで分かりません。痛くないんで

す。無論排世感もありませんから全てに人の手をわずらわすんです。重度障害者の日常生活は地獄です。それでも生命ある限り生きなきゃならん。時には見知らぬ人々の手を借りても、ね。できる限りの仕事もし、みんな精一杯生きてます。私達も生きていますよ。私達も生きてほしいんです」

わずかに残っているという肩の力を借りて不自由な腕で車椅子を操りながら、切なる想いをあえて淡々とした口調で語る人。私には返す言葉がない。健常者でありながら車椅子では仮設の坂も越えられず、わずかな太さの棒切れも越えられない。何度も練習してやっと車椅子の前輪を一時持ち上げて棒を乗り越えた時、嬉しくて胸が熱くなった。彼の言う通り、願わくば少しの予算を上乘せしてより軽いアルミの車椅子が支給されるようになることを私も関係機関にお願いしたい。降りて持ち上げてみようとしたが出来なかった。その重さはそのまま、介護する人、される人の苦しみ、重さのようだ。

広場の店で買った障害者製作の人形、牛乳パック再生の小物入れを抱えて今日一日を振りかえる。声の出るタイプで手紙を打ってくれた目の不自由な女性をはじめ、障害者の皆さんの不思議なほどの明かるさ、澄んだ美しさ、さりげなさの意味するものを考えてみる。それは、失ったものを数えず、残っているもの、持っているものに感謝し、それを最大限に活かして生きようとする前向きな心の故ではないだろうか。だとしたらそれは障害者のみならず全ての人間にあってはめて言えることではないか。

ガイドヘルプと言いつ、介護と言いつが助ける者と助けられる者の立場は具体的な意味と眼に見えぬ意味あいにおいて時に逆転する。双方五分五分なのだと言付かされた。それに気付くことが「ふれあい広場」の本当の目的なのではないか。深刻な問題をあえて気軽なお祭仕立てにしたのは成功だったと思う。一人でも多くの市民が気軽に参加して、ボランティア活動とは特別なものでなくできることを当り前にすることだと感じてしなやかに目的に近づくことこそ大事なのだ。

障害者が閉じこもりがちの家を出る。市民が当然のように見知らぬ人の車椅子を押し、白杖を持った人にひじを貸して語りつつ歩き、微笑んで唇を見つめながら手話で心を通わせる町。それが当り前の町になる日のために、ふれあい広場を一回限りのイベントにしてほしくない。小規模でもいいから毎年続けてほしいと心から願う。私もいつか必ずお手伝いしたいから。学ぶことの多かった一日に、学ばせて下さった多くの方々へ深く感謝する。

## ふれあい広場90のぼり



▲手づくり「ふれあいの店」は大人気



# 友達の輪



今田 ヒデさん  
(65歳) 片倉町在住

郷土

のぼりべつを

……PR!!

この歳で何んにも飛びつく気分なんです、何ひとつ満足なものはないんですよ。

登別市観光ボランティアガイドに参加したのは、郷土文化研究会の方々と江差町を視察に行ったとき、家庭の主婦らしい方が自発的に町の観光ガイドを引き受けて自

分たちのまちの名所、旧跡をほこらしげに案内してくださったんですよ。すごく感銘を受けました。

それに近所の人でこの辺を散歩している方から、昔はこのあたりはどうだったんですか、と聞かれることもあって、自分のまちのことを知らないのではお客さんが来ても説明できない。そう考えていた

ところ、市で観光ボランティアガイドの募集があり、年齢制限の無を聞き、応募しました。現在二十五名程の会員ですが、私が最年長みたいです。

七月七日に地獄谷で第一目のガイドをしました。そうしたらお客さんの前に出たとたん、言いたいこと全部忘れてしまいましたね(笑い)それでも、私なりに説明させていたいたんですが、意外と好評でした。十分か十五分位の時間でしたが、最後に、とても判りやすかったですよ。と言われた時はとってもうれしかったです。

あと十年若かったら、もっといろんなことができると思いますし、自分自身の勉強にもなることですから。

「リポーター感 おう盛なチャレンジ精神、熱烈な郷土愛に燃える女性。工藤勝雄」

次回は、今田さんご紹介の栄町在住の荒川昌伸さんです。お楽しみに!!

## 交通安全運動 街頭啓発

人と旗の波

増加を続ける交通事故は、最悪の事態が予想されます。悲惨な交通事故をなくすため、「事故にあわない」「事故をおこさせない」を合言葉に、市民参加に

「事故にあわない」「事故をおこさせない」を合言葉に、市民参加に

※雨天は中止します。※旗は主催者側で用意しています。

開会式 14:00~14:15 幌別小学校グラウンド  
(13:40までに集り下さい)  
街頭啓発

町内	実施時間	街頭啓発実施場所
富士町	14:20~14:40	道道弁景・幌別線新川町4丁目高岸商店~市道中央26号線富士町1丁目千成青果店~北海道銀行登別支店横交差点間
中央町	14:20~14:40	市道中央通り、中央町4丁目セイコーマートはま~中央町3丁目森脇整骨院前交差点間
中央町	14:20~14:40	市道中央通り、中央町6丁目北海道銀行登別支店~幌別小学校プール横交差点間
鉄南地区	14:20~14:40	国道36号線 幌別東小学校周辺
登別東町	14:30~14:50	国道36号線登別東歩道橋~登別駅前交差点~道道洞爺湖登別線登別温泉中学校バス停間
中登別町	14:30~14:50	道道洞爺湖登別線登別温泉中学校バス停周辺
登別温泉町	14:40~15:00	市道温泉4号線、登別温泉町滝本イン~登別パラダイス間
札内町	14:40~15:00	道道上登別室蘭線札内小中学校入口周辺
桜木町	14:20~14:40	道道上登別室蘭線桜木簡易郵便局~青葉小学校間
若山町	14:20~14:40	道道上登別室蘭線若山町道南バス若山営業所周辺
新生町	14:30~14:50	道道上登別室蘭線新生町2丁目バス停~新生町1丁目サンホームビデオ新設店前交差点間
若草町	14:30~14:50	道道上登別室蘭線ゴールデン若草パチンコ店~若草小学校間
幌別町	14:40~15:00	道道室蘭環状線登別2丁目かわむら製菓~国道36号線登別歩道橋~登別5丁目東登別バス停間

### 行方不明者相談所を開設します

家出をした方や行方不明になっている方を捜している方はご利用ください。

相談を希望される方は、捜してほしい方の特徴をできるだけ詳しく調べてください。写真などがあ

りましたらお持ちください。秘密は固く守られます。

▼日時 九月十二日(水)、十三日(木)午前九時三十分から午後四時まで

▼場所 室蘭警察署(室蘭市新富町一丁目五〇五191)

※相談所へ行くことができない方は派出所などでも相談をお受けします。





# 生涯学習コーナー

## 生涯学習社会を

### めざして

すでにご存知の通り、わたしたちのまちでは昨年四月、来るべき二十一世紀社会を展望し、教育委員会に生涯教育推進室を設置して市民が豊かに生きがいを求める姿を願ひ、多くの事業や情報の提供更に学習機会の開放を進めてきました。

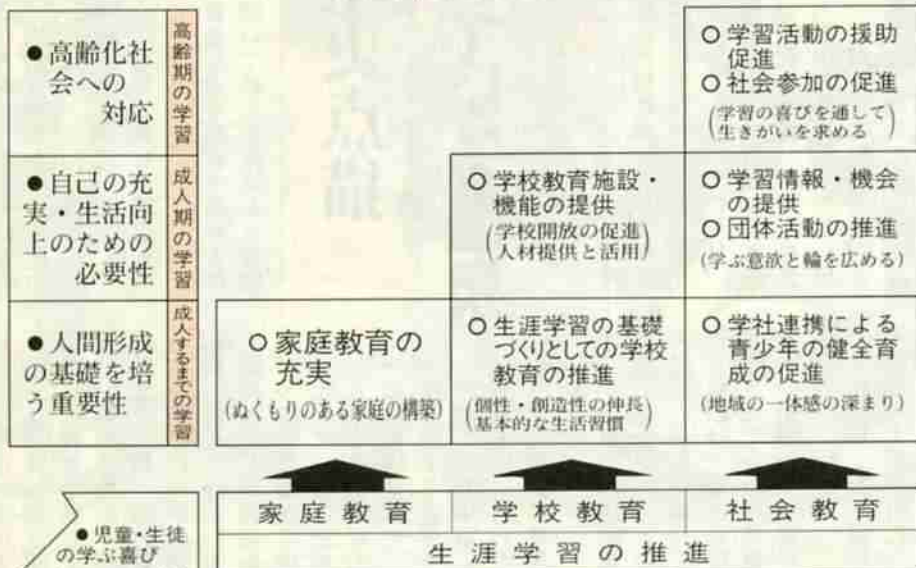
生涯学習社会の形成を進める方策として、今回はその構想図を見ていただくことによって、そのねらいと窓口となる教育機関の施策をご理解いただきたいと思ひます。特に今回は、「明日をひらく窓」が同時にお手許に届きますので、その生涯教育ニュースによって具体的な「生涯学習の姿」をご覧ください。

お読みいただければ判りますように、案外気軽にあなたも参加できるのではないのでしょうか。

参加することによって喜びが笑いとなり、笑いの和が、大きなうねりの輪となり、住みよい「のほりべつ」が展望できるのではないのでしょうか。

## 登別市の生涯学習構想

—学習社会をめざして—



## お知らせ

広報八月十五日号に掲載したほくでんファミリコンサートの開催・開演時間に変更になりました。

▼日時 九月十五日(土) 午後四時三十分開場、午後五時三十分開演

▼問い合わせ 教育委員会社会教育課 ☎1100 内線36

## 「九月九日は救急の日」

救急車は正しく利用しましょう

登別市の平成元年中の救急出動件数は一一四一件で主な出動は急病六九一件、交通事故一九八件、一般負傷一一三件などとなっています。このように救急車は多くの人に利用されていますが、依然として緊急性のない軽いケガや病気で要請されることがあります。

救急車は正しく利用しましょう。講習会のお知らせ

登別市消防本部は、いざという

ときのために応急処置の講習会を開催します。

▼日時 九月十五日(土) 午後一時〜午後五時

▼場所 市役所第二庁舎二階

▼定員 五十名

▼内容 いざというときのための応急手当など

▼締め切り 九月十二日(水)

▼申し込み先 登別市消防署 ☎2551

## 海上保安大学校及び海上保安学校生募集

人事院と海上保安庁は、平成二年度の海上保安大学校と海上保安学校生を募集します。

▼受験資格 昭和四十二年四月二日(大学校は昭和四十五年四月二日)以降に生まれた方で高等学校を卒業した方及び平成三年三月高等学校・専門学校卒業見込みの方

▼試験日 大学校 第一次：十一月三・四日 第二次：平成三年一月八日、学校 第一次：十一月四日、第二次：平成三年一月八・九日

▼受け付け期間 九月六日(木)〜九月十九日(水)

※詳しくは室蘭海上保安部管理課 ☎31322 までお問い合わせ

## 不動産取得税

### について

せくください。

不動産取得税は、土地や家屋を売買・贈与・交換・建築などにより取得したときに一度だけ課税される道税です。

▼税額 取得した不動産の固定資産評価額の四％です。ただし、住宅は三％です。

▼軽減措置 住宅及び住宅用土地を取得したときや公共事業に関連して代わりの不動産を取得したときなどは、一定の要件を満たす場合に税額が軽減されることがあります。

※詳しくは胆振支庁税務部課税課 不動産取得税係 ☎9131 内線274・275 までお問い合わせください。



登別温泉の地獄祭りも、全国の鬼を集めて「鬼サミット・登別」を開催したことにより、全国に紹介され北海道唯一の「地獄の鬼の祭り」として一層定着してきたようである。

鬼の出るような地獄谷の活動の中心は、第一回に紹介したが、「此処は礁石・礁砂で中程に温泉湯元もあるが、煮る音百千の雷を轟かすが如く」と言うように江戸時代の地獄谷周辺の温泉活動は現在より激しく、場所も広い地域に広がっていたようである。現在、活動がやや沈静化の傾向にあるようだが、明治以降の活動の様子を考えてみよう。

地獄谷の第一展望台から地獄谷の奥、東北の位置に「千疊敷」という場所がある。地獄谷入口美化センターを左側クツラ湖周遊道路を進むと、右手に赫岩の絶壁に緑の山、山狭から谷川の流れがあり、足元の崖下に広大な砂原が見られる。これが奥地獄にある「千疊敷」で笠山地点から見る景観は雄大で素晴らしい。

現在、地獄谷より一段高く広い此の所も明治十二年（一八七九）頃は、長径約四十程の大きさの熱湯の温泉池があった跡で、明治十八年頃には一時間に七、八回の湯が噴出し、高さも六、七から十、十一という眼を見張るような噴出ぶりには実に壮大で見事。宮城県の鬼頭、

静岡県熱海温泉とともに日本三大間歇泉の一つに数えられていた温泉池の間歇泉跡である。千疊敷湯沼の噴湯は沼に溢れ、滝のように地獄谷に落ちていたと言いが、明治二十一年に突然活動を休止し、翌年再び活動を始めたものの此の時は、一日に二・三回で高さも一程。明治三十五年（一九〇二）には全く活動を停止して湯沼も消滅してしまっただけ。

第一展望台から地獄谷をみると右手に地獄川が流れ、その左手の北側に地獄山が程近く見える。この地獄山の東南に、釜・虎・たつまき・大地獄などの地獄が地獄川に添って現出している。

例えば、虎地獄は昭和五年五月、突然に大音響を発して高さ約二・五程の噴湯を始め、回りの岩片を飛散させて剣が峰の麓部に約三程の穴を生じたのが虎地獄で、此の活動が暫らく続いた後に、何故か大湯沼の湯が灰黒色から白色に濁ってきた頃から虎地獄は沈静化している。釜地獄は昭和十五年十月初旬に大音響とともに壁を崩落させ、地下に微かな煮沸する音響をさせていた。昭和二十五年頃になると、地獄谷入口に近い大地獄は弱まり、鉛地獄の噴泥現象はみられない。

## 郷土史点描 動いてゐる温泉

登別郷土文化研究会 宮 武 紳 一

約十五程にお初地獄と、その岩壁の裏側に大砲地獄がある。大正十一年（一九二二）八月、この大砲地獄の所で突然に長さ約五十程の熱泥の熱湯、水蒸気を北東に大噴出するという珍しい現象があった。一日に数回、大砲のような爆発音を発して噴出する様子はさすがの温泉人も驚かせたらしい。この大砲地獄も数か月後に衰退し、更に大正十五年八月に再度噴出活動をみたが数日で終り、現在は上壁も崩落し沈静化している。

地獄谷の活動傾向が弱まった前記明治二十一年の温泉活動は大湯沼の活動が激しくなると、大正五年頃は北湯沼北岸に間歇泉を発生させていた。地獄谷と大湯沼方面の相関関係も資料をみると興味深い。

それにしても、昭和四十年代に地獄谷・大湯沼附近以外、クスリサンベツ川上流の温泉市街地には、約四十の湧出口があり間歇泉もあつた事が報告されていたが、まるで生きものの様な状態の温泉の地獄はどう動いているのであろうか。

## 町界の一部変更」と「地番変更」のお知らせ

登別市富岸土地区画整理事業の換地処分に伴い、次の町界の一部と地番が変わりました。

- ▼対象地域 富岸町二丁目一番地、二十番地、富岸町三丁目十五番地及び三十五番地、三十八番地、新生町二丁目四十八、四十九番地、新生町四丁目四十二、四十三番地及び五十一番地、五十四番地、若山町四丁目二十四、二十五、二十七番地及び三十三、三十四番地、三十六、五十六番地
- ▼変更期日 平成二年八月二十四日
- ▼留意事項 この度の変更に伴い、住民票等は市役所で職権変更しますが、その他運転免許証等はご自身で手続き願います。
- ※問い合わせ 市役所都市計画課 区画整理係（☎4115）

## 九月十日は 全国下水道促進デー

下水道協会と水道新聞社は、下水道の整備を早期に実現するため、皆さんの理解と協力を得、下水道促進のムードを盛り上げる目的で各種コンクールを実施します。多数ご応募ください。

- ▼コンクールの種類
- ポスターコンクール

- 作文コンクール
  - 標語コンクール
  - 写真コンクール
- ※作品の内容及び応募方法等詳しいことは下水道下水道課庶務係（☎9052）へお問い合わせください。

## 公衆浴場を 無料開放します

道公衆浴場業環境衛生同業組合は、お年寄りの憩いの場として公衆浴場を無料開放します。

- ▼期間 敬老の日を含む三日間（九月十四日～十六日）
- ▼対象 六十五歳以上の方（介添者がいる場合は、その介添者）
- ▼利用方法 公衆浴場の方に申し出てください（何回でも利用できます）
- ▼問い合わせ 市役所社会課（☎1911）

## 行政書士 WJCSの無料相談

相続、年金、役所の手続きなどがよくわからない方。お気軽にご相談ください。

- ▼場所・日時 ファミリーデパート桐屋：九月二十六日（水）午前十時から午後三時 安井ビル二階会議室（登別市役所向）：九月九日（日）午前十時から午後三時
- ▼問い合わせ 行政書士村上清事務所（☎0143762376）